



⚠️ ご使用前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

XJR1300

XJR1300

5UX-28199-JC

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。



この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1	サイドスタンド..... 3-18	ドライブチェーン..... 6-12
あなた自身と同乗者のために..... 1-1	イグニッションサーキット	ドライブチェーンの給油..... 6-13
歩行者と他の車のために..... 1-5	カットオフシステム..... 3-19	バックミラー..... 6-13
環境・住民の方との調和のために..... 1-6		車体各部の給油脂状態の点検..... 6-14
		アンダーブラケットの取り付け状態 の点検（ステアリングステム）..... 6-14
各部の名称 2-1	日常点検 4-1	バッテリー..... 6-14
左側面..... 2-1	日常点検の実施..... 4-1	ヒューズ交換..... 6-16
右側面..... 2-2	日常点検箇所／点検内容..... 4-1	灯火装置および方向指示灯の点検..... 6-17
運転装置と計器類..... 2-3		運行において異常が認められた 箇所の点検..... 6-17
各部の取り扱いと操作 3-1	運転操作 5-1	
キーの取り扱い..... 3-1	エンジン始動..... 5-1	お車の手入れ 7-1
イモビライザーシステム..... 3-1	ギヤチェンジのしかた..... 5-2	洗車..... 7-1
メインスイッチ..... 3-2	ならし運転..... 5-2	キャストホイールの取り扱い..... 7-2
警告灯と表示灯..... 3-3	駐車..... 5-2	保管のしかた..... 7-2
スピードメーター..... 3-4		アフターケア用品について..... 7-3
タコメーター..... 3-5	点検整備 6-1	製品仕様 8-1
マルチファンクション ディスプレイ..... 3-5	点検整備の実施..... 6-1	ユーザー情報 9-1
盗難警報器（別売アクセサリ）..... 3-8	サービスツール..... 6-2	二輪車を廃棄する場合は？..... 9-1
ハンドルスイッチ..... 3-8	カバーの取り外し、取り付け..... 6-2	サービスマニュアル（別売）の 紹介..... 9-2
フェューエルタンクキャップ..... 3-10	エンジンオイル..... 6-3	車両情報..... 9-2
燃料..... 3-11	エンジンのかかり具合、 異音の点検..... 6-4	
シート..... 3-11	低速、加速の状態の点検..... 6-4	索引 10-1
ヘルメットホルダー..... 3-12	エアクリーナーエレメントの交換..... 6-5	
書類入れ..... 3-12	タイヤ..... 6-6	
小物入れ..... 3-13	クラッチ..... 6-8	
フロントフォークの調整..... 3-13	ブレーキレバーの遊び／ ブレーキペダルの遊び、および ブレーキのきき具合の点検..... 6-9	
リヤクッションの調整..... 3-15	ブレーキランプスイッチ..... 6-9	
荷掛けフック..... 3-17	ブレーキパッドの点検..... 6-10	
ブレーキレバー／クラッチレバーの 握り調整..... 3-18	ブレーキ液量の点検..... 6-10	
	ブレーキ液の補給..... 6-11	

JAU27281

JAU2737A

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

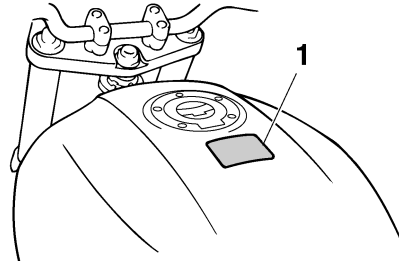
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

安全運転のために

1



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

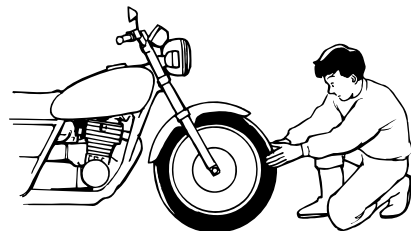
- 靴はかかかさが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



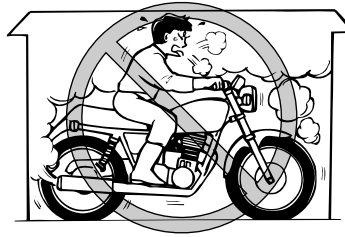
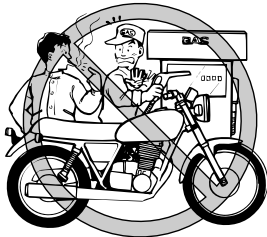
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。販売店で点検・整備を受けてください。

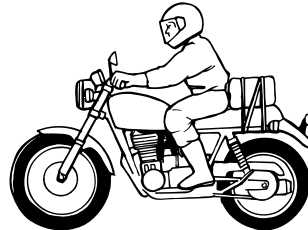
- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



荷物はしっかり固定する



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

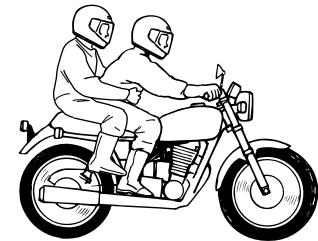
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。

- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなる場所へ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかりと固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

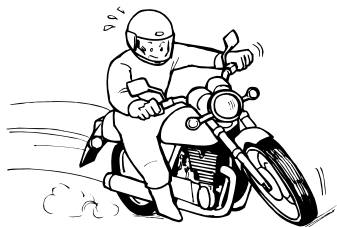
安全運転のために

1

また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



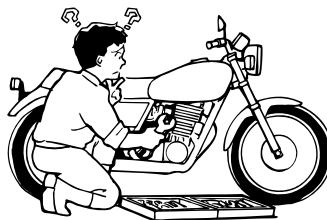
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



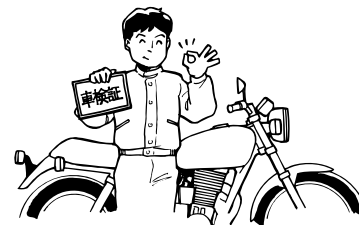
JCA15221

注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から3年後に受け、2回目以降の継続検査はその後2年ごとに受けます。検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。

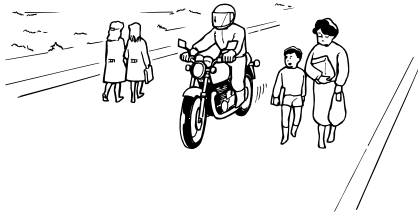


歩行者と他の車のために

JAU27504

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

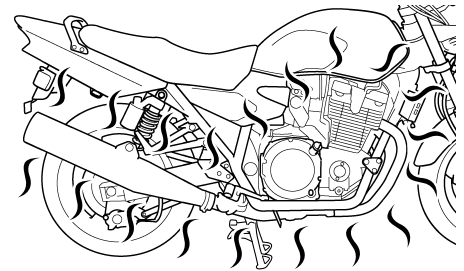
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

警告

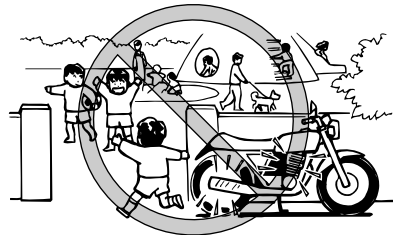
JWA12241

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所に行ってください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。



昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。



安全運転のために

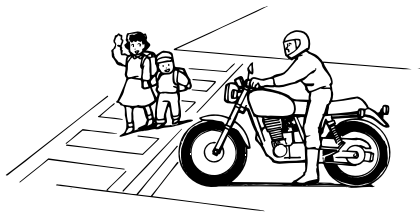
1

環境・住民の方との調和のために

JAU27581

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

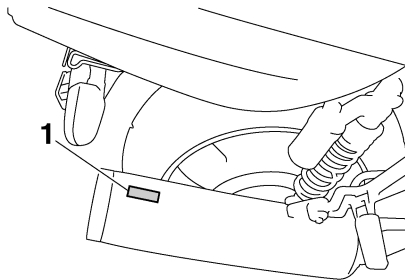


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

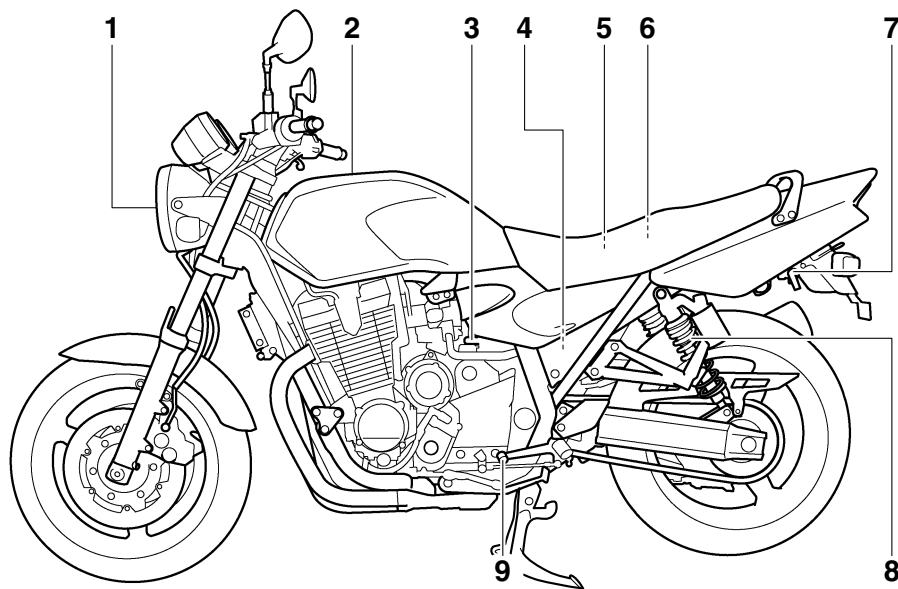


1. “YAMAHA”マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面



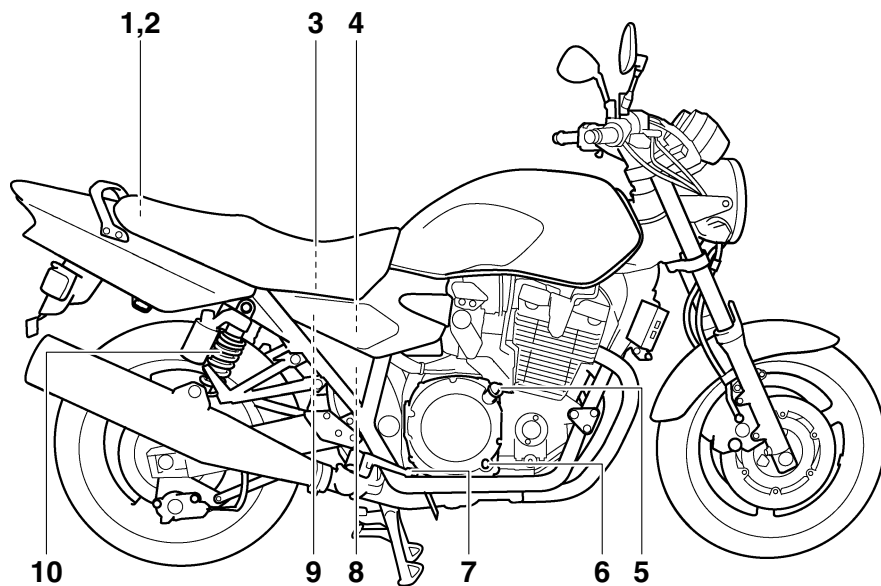
1. ヘッドライト
2. フューエルタンクキャップ (P3-10)
3. ブローバイガス還元装置のブリーザー drenホース (P 6-5)
4. ヒューズボックス (P 6-16)
5. メインヒューズ (P6-16)
6. サービスツール (P6-2)
7. シートロック/ヘルメットホルダー (P3-11/P3-12)
8. リヤクッション (P3-15)
9. シフトペダル (P5-2)

各部の名称

JAU10421

右側面

2

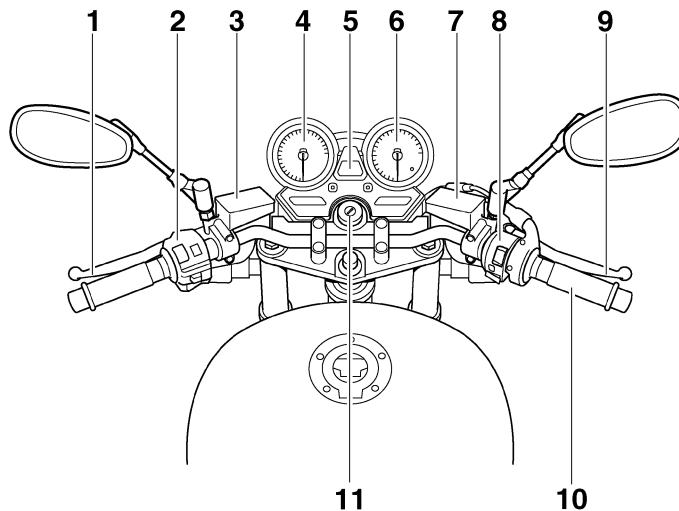


1. 小物入れ (P3-13)
2. 書類入れ (P3-12)
3. バッテリー (P6-14)
4. エアクリナーエレメント (P 6-5)
5. オイル注入口 (P6-3)
6. エンジンオイル点検窓 (P6-3)
7. ブレーキペダル (P 6-9)
8. リヤブレーキランプスイッチ (P 6-9)
9. リヤブレーキリザーバタンク (P6-10/P6-11)

10. リヤクッション (P3-15)

運転装置と計器類

2



1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-8)
3. クラッチリザーバータンク (P6-8)
4. スピードメーター (P3-4)
5. マルチファンクションディスプレイ (P3-5)
6. タコメーター (P3-5)
7. フロントブレーキリザーバータンク (P6-10/P6-11)
8. ハンドルスイッチ (右) (P3-8)
9. ブレーキレバー (P6-9)

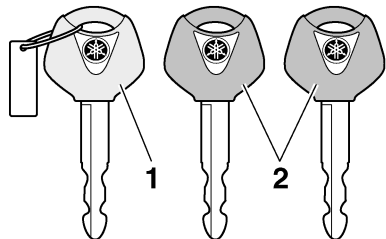
10. スロットルグリップ
11. メインスイッチ/ハンドルロック (P3-2)

各部の取り扱いと操作

JAU33073

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12773

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含まれます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または布製のものをお勧めします。

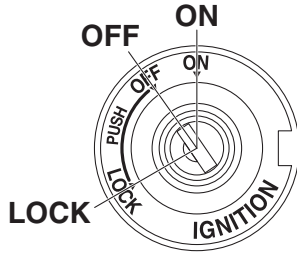
JAU26895

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は3-4ページを参照してください。）

メインスイッチ

JAU10462



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11621



警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11972

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

JAU46011

JAU10693

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

ON

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプとナンバー灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

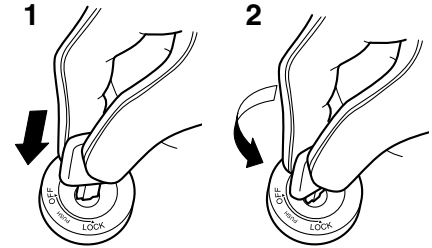
OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



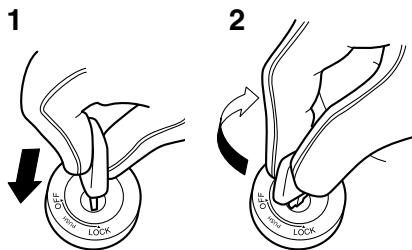
1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱい切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

各部の取り扱いと操作

ハンドルロックの解除のしかた

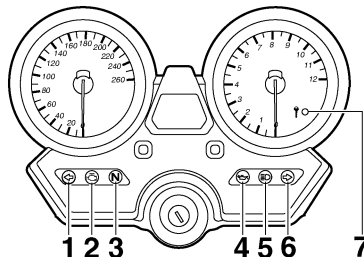
3



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

警告灯と表示灯



1. 方向指示器表示灯 (左) "◁"
2. エンジン警告灯 "⚠"
3. ニュートラルランプ "N"
4. エンジンオイル量警告灯 "⚠"
5. ヘッドライト上向き表示灯 "≡〇"
6. 方向指示器表示灯 (右) "▷"
7. イモビライザーシステム表示灯 "⚡"

方向指示器表示灯 "◁/▷"

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11032

ニュートラルランプ "N"

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11061

ヘッドライト上向き表示灯 "≡〇"

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11081

JAU49397

エンジンオイル量警告灯 "⚠"

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。エンジンオイル量を点検し、不足しているときは早めに補給してください。(6-3 ページ参照)

JAU11124

要点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速を行ったときは警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

注意

- 何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。

JCA12951

JAU46443

エンジン警告灯 "⚠"

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。(詳しくは、3-7 ページのマルチファンクションディスプレイ)

レイにある自己診断機能の説明を参照してください。)

要 点

- メインスイッチを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

イモビライザーシステム表示灯 “I”

JAU27025

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときや点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車は、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンが運転中か停止中かにかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12751

注 意

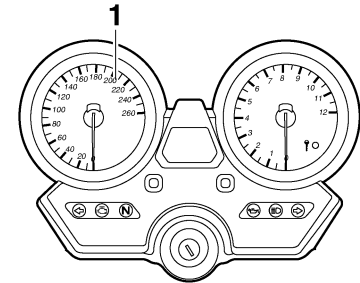
自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。(この車のキーも含まれます。) ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

スピードメーター



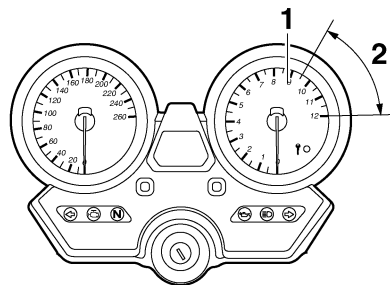
1. スピードメーター

車の速度を示します。電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

各部の取り扱いと操作

タコメーター

JAU33803



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

JCA12962

注意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：9500 r/min 以上

マルチファンクションディスプレイ

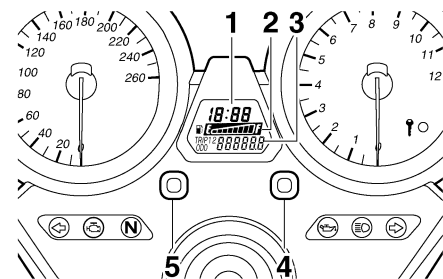
JAU4324A

JWA12161



警告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は、必ず停車中に行ってください。



1. 時計
2. 燃料計
3. オドメーター/トリップメーター/フェUELトリップメーター
4. リセットスイッチ
5. セレクトスイッチ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

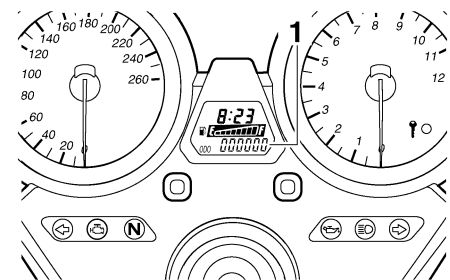
- オドメーター（走行した総距離を表示します）
- トリップメーター1/トリップメーター2（リセットしてからの走行距離を積算します。）

- フェUELトリップメーター（燃料警告表示が点滅してからの走行距離を表示します。）
- 燃料計
- 時計
- 自己診断機能
- メーター照明の調整

要点

- セレクトスイッチやリセットスイッチを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、約 2 秒後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。


オドメーター/トリップメーター



1. オドメーター/トリップメーター/フェUELトリップメーター

セレクトスイッチを押すごとに、オドメーターモード“ODO”とトリップメーターモード“TRIP”が下記の順で切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → ODO

フューエルタンクのカソリンの残量が約 4.5 L になると、燃料警告表示“”が点滅し、表示は自動的にフューエルトリップメーターモード“TRIP F”に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このときセレクトスイッチを押すと、オドメーターモード“ODO”とトリップメーターモード“TRIP”は下記の順に切り替わります。

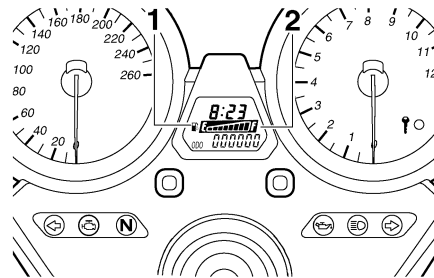
TRIP F → ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F


トリップメーターのリセットは、セレクトスイッチを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてからリセットスイッチを2秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、カソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。


要 点

フューエルトリップメーターをリセットすると、再度フューエルトリップメーター表示“TRIP F”に戻すことはできません。

燃料計




1. 燃料残量警告表示“

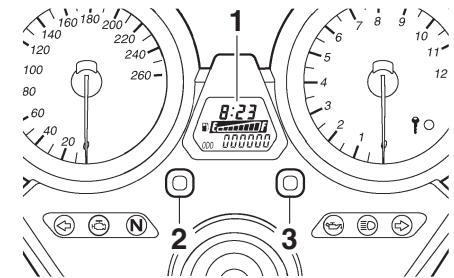
メインスイッチを ON にするとフューエルタンクのカソリンの残量を表示します。カソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数が減ります。カソリンの残量が少なくなると燃料警告表示“”が点滅して知らせます。カソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

要 点

残量の確認は、平坦な場所でメインスタンドを立て、メインスイッチを ON にしてください。

この燃料計は、電気回路の自己診断機能を装備しています。回路に異常が発生したときは、すべてのセグメントと燃料警告表示“”が点滅します。自己診断機能が働いたときは、早めにヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計



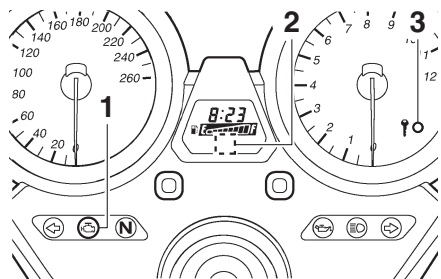
1. 時計
2. セレクトスイッチ
3. リセットスイッチ

時刻調整のしかた

1. セレクトスイッチとリセットスイッチを同時に2秒以上押します。
2. <時>の表示が点滅したら、リセットスイッチを押して<時>を合わせます。
3. セレクトスイッチを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. リセットスイッチを押して<分>を合わせます。
5. セレクトスイッチを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

各部の取り扱いと操作

自己診断機能



1. エンジン警告灯 “”
2. エラーコード表示
3. イモビライザーシステム表示灯 “”

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。

回路のいずれかが故障した場合、エンジン警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

また、このモデルにはイモビライザーシステムの自己診断機能も備わっています。

イモビライザーシステムが故障した場合は、イモビライザーシステム表示灯が点滅し、マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。

マルチファンクションディスプレイにエラーコード 52 が表示されたときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3

本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要点

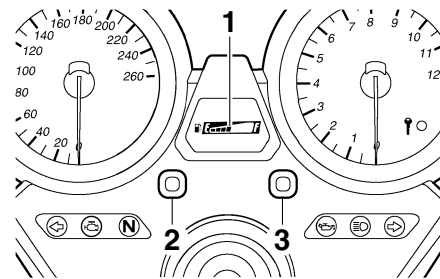
他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。(この車のキーも含みます。) ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

JCA13002

注意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示しているときは、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く点検を受けてください。

メーター照明の調整



1. 燃料計
2. セレクトスイッチ
3. リセットスイッチ

この車のメーター（マルチファンクションディスプレイを含む）には、照明の明るさを調整できる機能があります。

メーター照明の調整のしかた

調整は、以下の手順で行ってください。

JWA14B51



警告
メーター照明の調整をするときは、安全な場所に車を停車させて行ってください。

1. メインスイッチが OFF の状態でセレクトスイッチを押し、そのままメインスイッチを ON にして約 5 秒間待ちます。約 5 秒の間に通常メインスイッチを ON にしたときのメーターの初期表示が行われ、その後、マルチファンクションディスプレイの表示が燃料計だけに

なって、現在設定されているメーター照明の明るさを示す数のセグメントが点滅します。

2. セレクトスイッチを離します。
3. リセットスイッチを押して、明るさを調整します。

リセットスイッチを1回押すごとに点滅しているセグメントの数が1個ずつ増え、同時にスピードメーター、タコメーター、マルチファンクションディスプレイの照明が明るくなります。

燃料計のセグメントが8個点滅しているとき（一番明るい設定のとき）にリセットスイッチを押すと、セグメントの点滅数が1個になり、各メーターの照明が暗くなります。

4. 希望する明るさになったら、セレクトスイッチを押します。

メーター照明の設定が保存され、マルチファンクションディスプレイの表示が通常表示になります。

要 点

- メーター照明の調整中でも、エンジンの始動は可能です。
- メーター照明の調整中に走行を始めたリメインスイッチをOFFにしたときは、その直前に調整されていた設定が保存されません。

盗難警報器（別売アクセサリ）

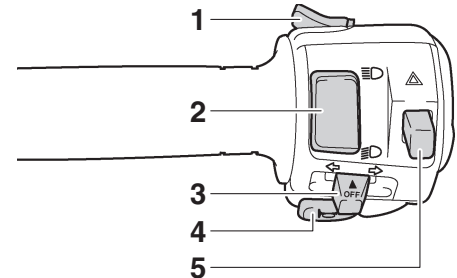
この車には、別売アクセサリーの盗難警報器を装着することができます。装着については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。


JAU12333

ハンドルスイッチ

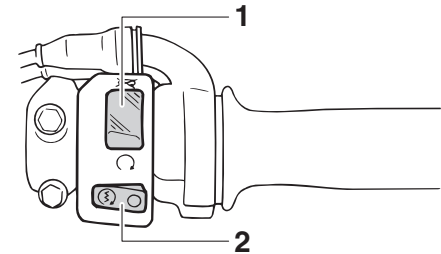
JAU1234H

<左>



1. パッシングライトスイッチ “PASS”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ \equiv ○/ \equiv ○”
3. 方向指示器スイッチ “<⇐/⇒>”
4. ホーンスイッチ “ ”
5. ハザードスイッチ “ \triangle ”

<右>



1. エンジンストップスイッチ “ \bigcirc / \otimes ”
2. スタータースイッチ “ \otimes ”

各部の取り扱いと操作



3

パッシングライトスイッチ“PASS”

JAU12361

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。


要点


ヘッドライト上下切り替えスイッチが“/”のときは、使用できません。

JAU12401

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“/”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

 (上向き)：遠くを照らします。

 (下向き)：近くを照らします。

要点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。


JAU12461


方向指示器スイッチ“/”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

：右側の方向指示灯が点滅します。

：左側の方向指示灯が点滅します。

警告

JWA11641

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11983

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12501

ホーンスイッチ“”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要点

必要なときにのみ使用してください。

JAU28182

エンジンストップスイッチ“/○”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は“○”にしておきます。


JWA12011

警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA12351

注意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを“○”→“”→“○” にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要点

“”にすると、エンジンは始動できません。

JAU12713

スタータースイッチ“”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11882

注意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

ハザードスイッチ“△”

JAU33811

メインスイッチをONにした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11891

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

フューエルタンクキャップ

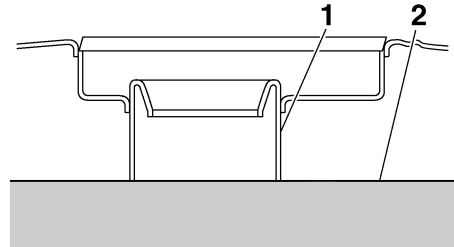
JAU13075

JWA12172

警告

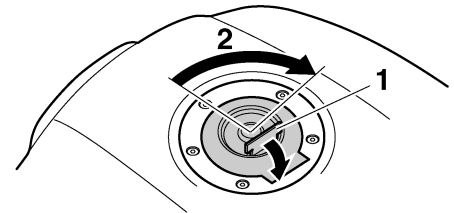
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィルターチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

1. ロックカバーを開けます。
2. キーをロックに差し込み、時計方向に1/4回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

各部の取り扱いと操作

3

フューエルタンクキャップの開めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを開めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを開めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないで、キーを抜き取るとはできません。

燃料

JAU31461

指定燃料

JAU28333

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 21.0 L

JCA12512

注 意

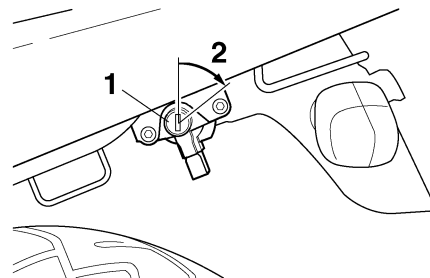
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート

JAU13941

シートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

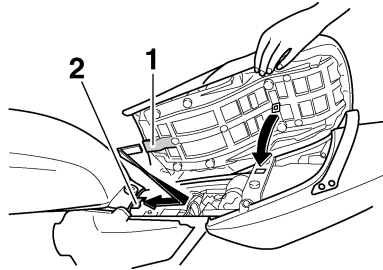


1. シートロック
2. 解除

2. シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



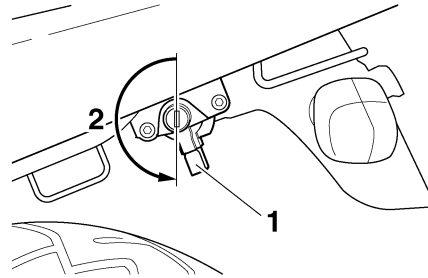
1. 突起
2. シートホルダー

2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

要 点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11651



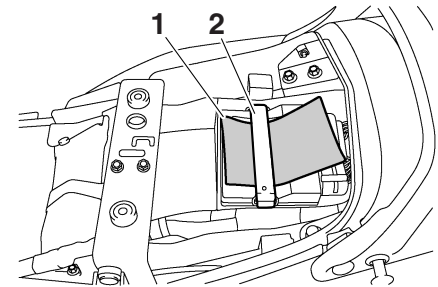
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。（3-11 ページ参照）車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。

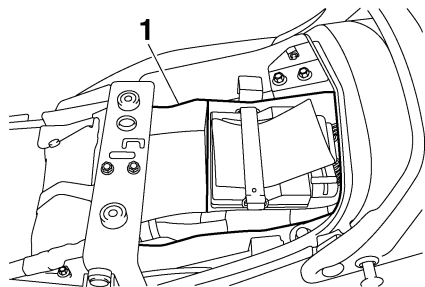


1. 書類入れ
2. ゴムバンド

各部の取り扱いと操作

小物入れ

JAU14454



1. 小物入れ

シートの下に小物入れがあります。(3-11 ページ参照)

JWA12431



警告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 **3 kg** を越えないでください。

JCA12972

注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をするときに水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。

- 貴重品やこわれやすい物はいれしないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物はいれしないでください。

要点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れてそのままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

フロントフォークの調整

JAU14744

フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11481

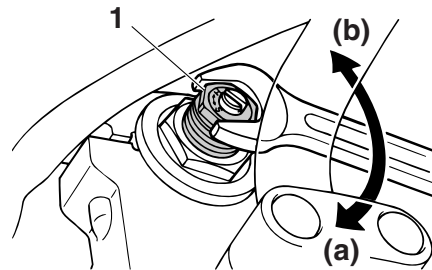


警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

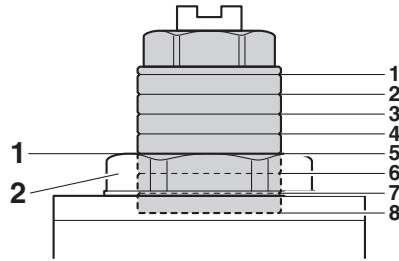
スプリングプリロードを大きくしてサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくしてサスペンションを軟らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。



1. スプリングプリロードアジャスター

要点

アジャスターの溝とフロントフォークキャップボルトの頭部を合わせます。



1. 調整位置
2. フロントフォークキャップボルト

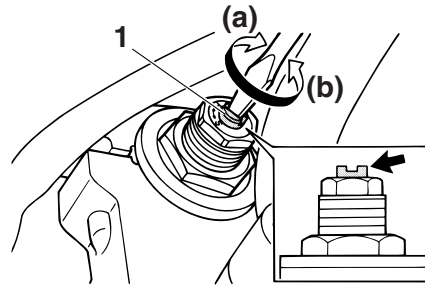
スプリングプリロード：

最小（ソフト）：
8 段
標準：
5 段
最大（ハード）：
1 段

伸側減衰力

伸側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)



1. 伸側減衰力アジャスター

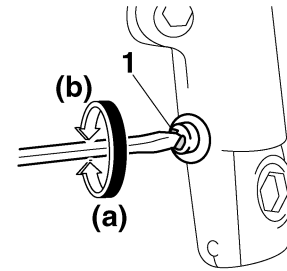
伸側減衰力：

最小（ソフト）：
10 段
標準：
5 段
最大（ハード）：
1 段

圧側減衰力

圧側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）：
13 段
標準：
6 段
最大（ハード）：
1 段

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

JCA11911

各部の取り扱いと操作

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

3

リヤクッションの調整

JAU43257

JWA11481

⚠ 警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

JWA12441

⚠ 警告

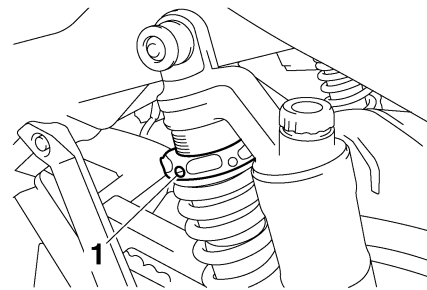
シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

スプリングプリロード

スプリングプリロードは、以下の手順で調整を行ってください。

1. ロックスクリューを 1/2 回転ゆるめま

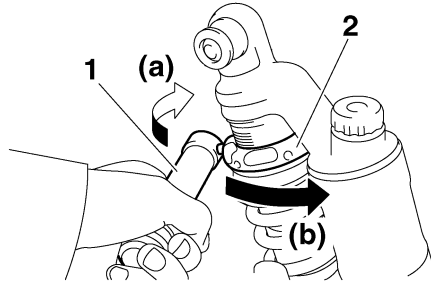


1. ロックスクリュー

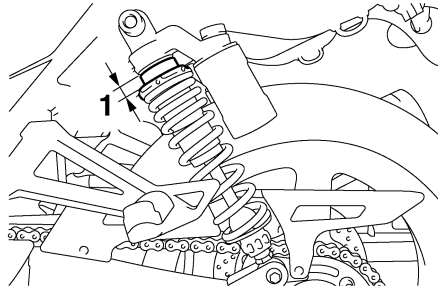
2. スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。
- スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは小さくなります。アジャスターを 1 回転するごとに、セット長 A は 1.5 mm ずつ変化します。
- ロックスクリューが車体外側の位置になるようにアジャスターを調整して下さい。



1. 調整レンチ
2. スプリングプリロードアジャスター



1. セット長 A

スプリングプリロード：

- 最小（ソフト）：
セット長 A = 0 mm
- 標準：
セット長 A = 17 mm
- 最大（ハード）：
セット長 A = 28 mm

3. ロックスクリューを締め付けます。

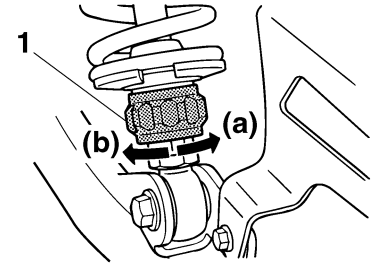
締め付けトルク

- ロックスクリュー
0.1 Nm (0.01 kgf·m)

伸側減衰力

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して、初めに“カチッ”というところが 1 段目です。)



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力：

- 最小（ソフト）：
36 段
- 標準：
10 段
- 最大（ハード）：
1 段

圧側減衰力

圧側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱め、サスペンションを軟らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

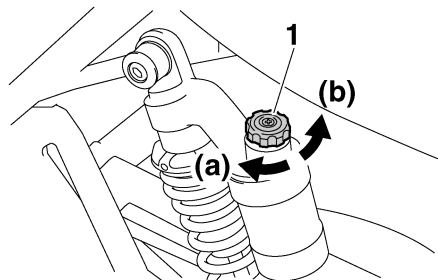
(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して、初めに“カチッ”というところが 1 段目です。)

各部の取り扱いと操作

JWA12451

JAU34611

3



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力：

最小（ソフト）

20 段

標準：

16 段

最大（ハード）：

1 段

JCA11911

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

警告

切り替えるときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

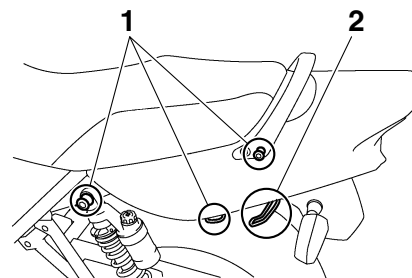
JWA10222

警告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店にて実施してください。

荷掛けフック



1. 荷掛けフック
2. 収納式荷掛けフック

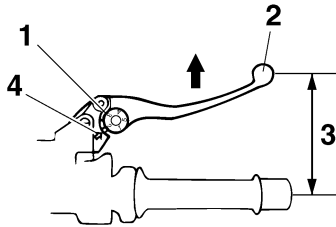
荷掛けフックは8個あります。そのうち2個は収納式です。

ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整

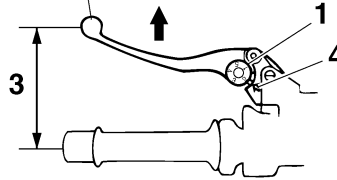
JAU29822

手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅が5段階に調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. アジャスター
2. ブレーキレバー
3. 握り幅
4. 矢印マーク



1. アジャスター
2. クラッチレバー
3. 握り幅
4. 矢印マーク

要点

アジャスターの数字と矢印マークを、必ず合わせてください。

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

警告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

JAU44903

イグニッションサーキットカット オフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

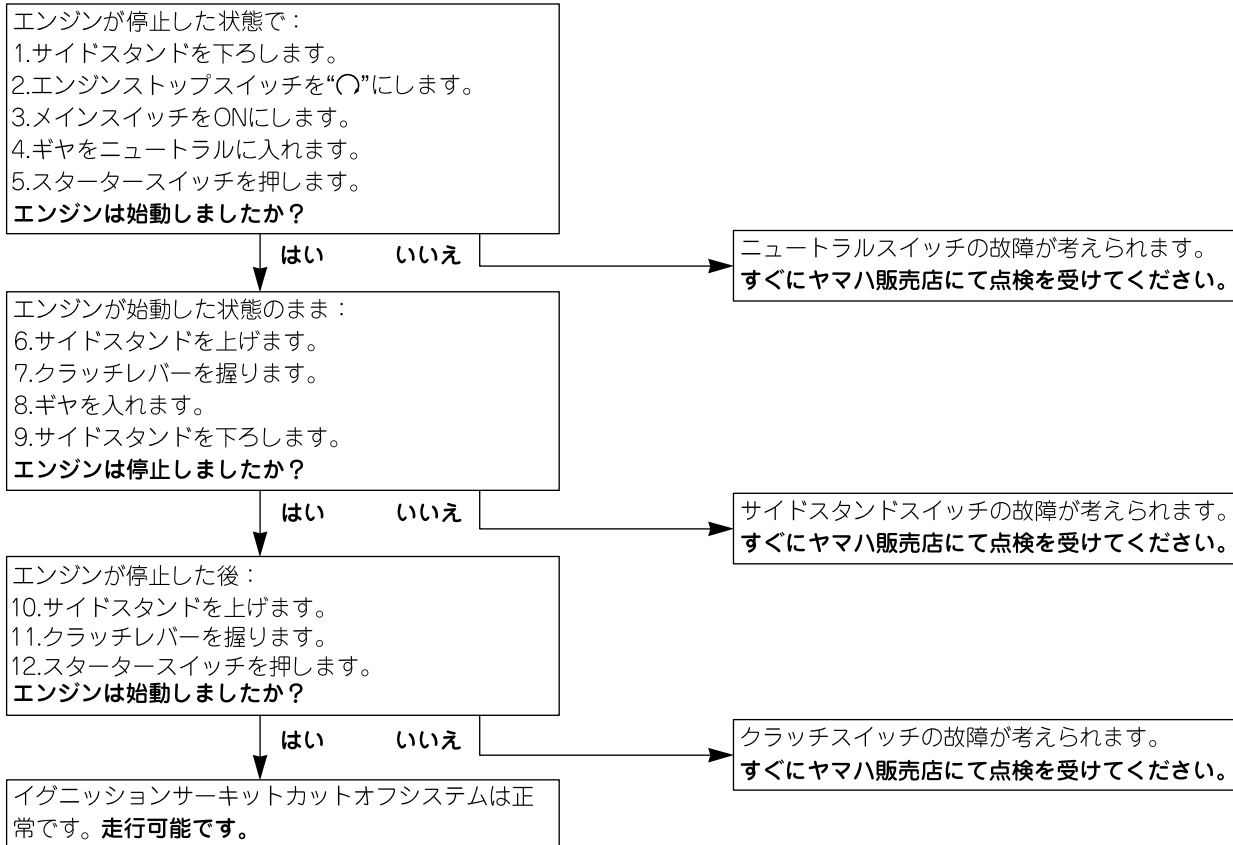
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11551

警告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検

JAU15598

JAU30063

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスの有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none">● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none">● タイヤの空気圧が適切であること。● 亀裂、損傷がないこと。● 異常な摩耗がないこと。● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none">● エンジンオイルの量が適当であること。(※)● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※)● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none">● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none">● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU48712

JAU48032

JCA16661

要 点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、ディスプレイにエラーコード 30 を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード 30 も表示されなくなります。
- 車両が停止した状態で 20 分以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

エンジン始動

JWA11562

警告

- エンジンを始動するときには、3-19 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが“○”にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

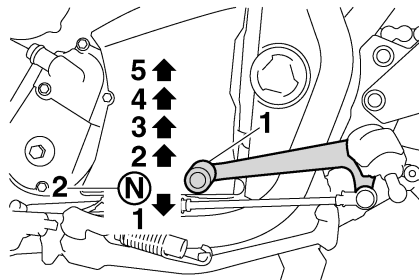
注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高めた状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

運転操作

ギヤチェンジのしかた

JAU27514



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の5段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12032

注意

- シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ならし運転

JAU31471

ならし運転のしかた

初回1か月目（または1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を5700 r/min以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU27663

駐車

JAU17214

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備の実施

JAU29839

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15461

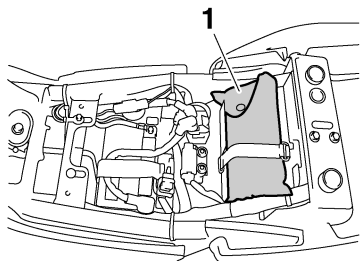
警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール



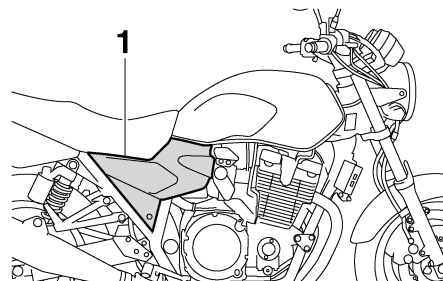
1. サービスツール

6

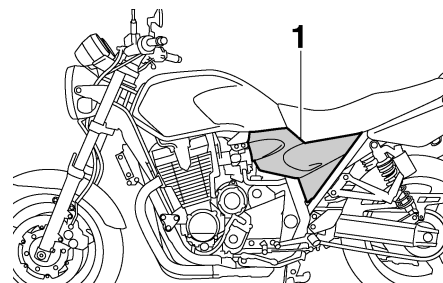
サービスツールはシートの下側にあります。
(3-11 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A

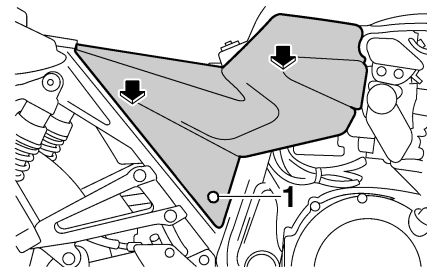


1. カバー B

カバー A/B

カバーの取り外しかた

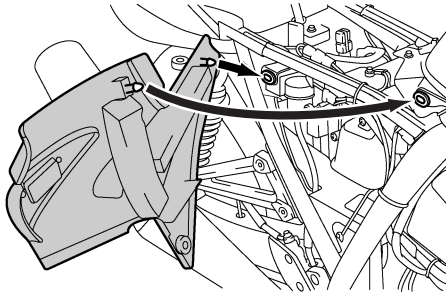
1. シートをとり外します。(3-11 ページ参照)
2. ボルトを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. ボルト

カバーの取り付けかた

1. カバーをもとの位置に取り付け、ボルトを締め付けます。



2. シートを取り付けます。

エンジンオイル

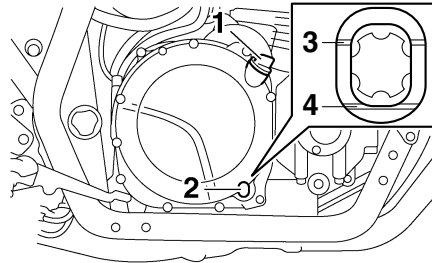
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2～3分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。



1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、7-3 ページ参照）

エンジンオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

6000 km 走行ごと、または 1 年ごと

エンジンオイル量：

オイルフィルターエレメント無交換時：

2.80 L

オイルフィルターエレメント交換時：

3.15 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターエレメントの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000 km 時

2 回目以降：

18000 km 走行ごと

JWA11861

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12102

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルヤマルーブ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱい切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして

点検します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

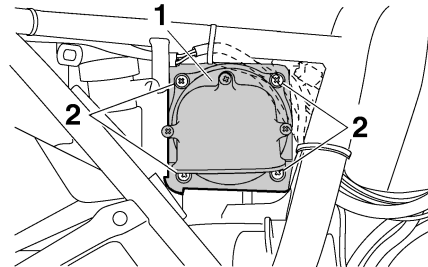
JAU43351

エアクリーナーエレメントの交換

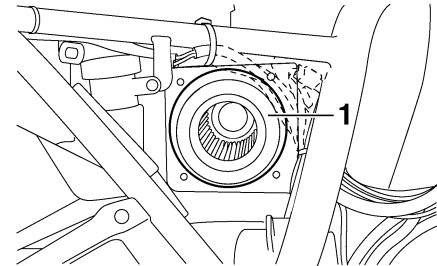
エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

エアクリーナーエレメントの交換

1. カバーAを外します。（6-2 ページ参照）
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー
3. エアクリーナーエレメントを取り外します。



1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバーを取り付けます。

JCA15751

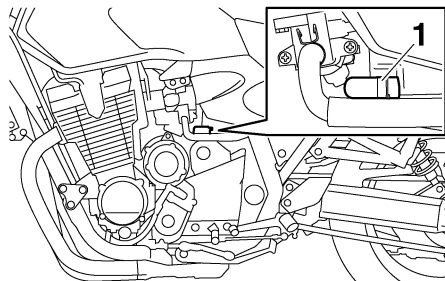
注意

- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。

点検整備

ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホースの清掃

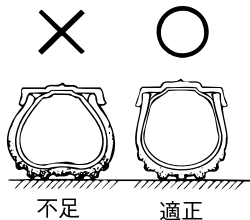
1. ブリーザーダレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザーダレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

JAU31026

タイヤ空気圧 (冷間時) :

1名乗車 :

前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車 :

前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行 (1名乗車) :

前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行 (2名乗車) :

前輪 :
250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪 :
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

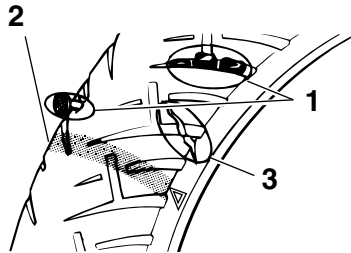
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケータ（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28775

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケータで点検します。ウェアインジケータがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要点

- ウェアインジケータはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性を確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪1.6mm、後輪2.0mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914



- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや**

前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。

- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

前輪：
120/70 ZR17M/C (58W)
後輪：
180/55 ZR17M/C (73W)

指定タイヤ：

前輪：
DUNLOP/D252F
後輪：
DUNLOP/D252

クラッチ

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーの遊びは無調整式です。クラッチレバーを手で作動させ、手ごたえを感じるかどうか確認します。

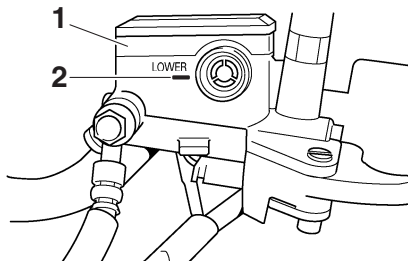
JWA11791

**警告**

クラッチレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29043

クラッチ液量の点検

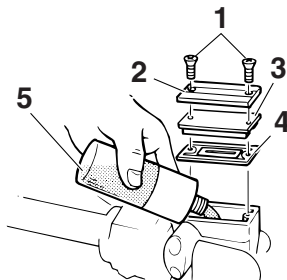


1. クラッチリザーバタンク
2. ロアレベル

クラッチリザーバタンク上面を水平にして、リザーバタンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

クラッチ液の補給

1. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを取り外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. クラッチ液をロアレベル以上補給します。



1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム
5. クラッチ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

指定クラッチ液：

ヤマルーブプレーキフルード BF-4 (DOT-4)

注意

- クラッチ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないように充分注意してください。
- クラッチ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときにあふれます。
- 液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- クラッチ液の変質を防ぐため、他銘柄を混入させないでください。
- クラッチ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。
- クラッチ液は安全のために2年ごとの交換をおすすめします。

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31121

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキランプスイッチ

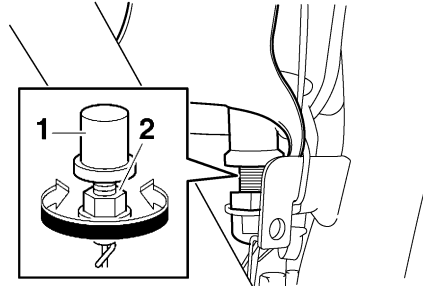
JAU22295

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

リヤブレーキランプスイッチの調整

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して調整します。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12081

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

3. カバーを取り付けます。

点検整備

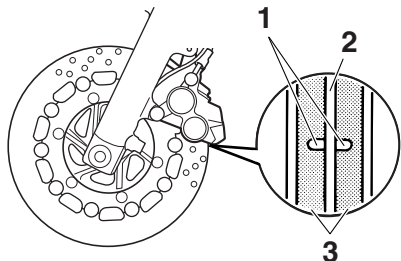
JAU29582

ブレーキパッドの点検

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。

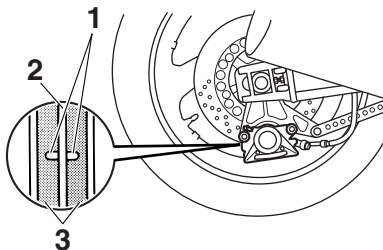
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



1. インジケーター溝
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

<リヤブレーキ>

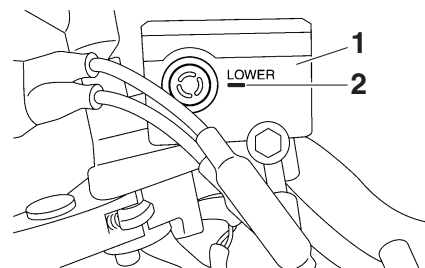


1. インジケーター溝
2. ブレーキディスク
3. ブレーキパッド

JAU30116

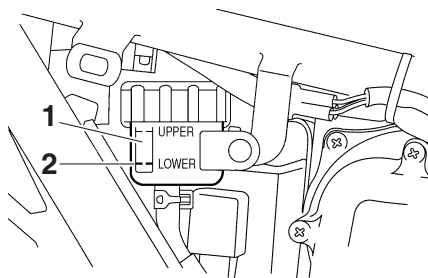
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. フロントブレーキリザーバータンク
2. ロアレベル

<リヤブレーキ>



1. リヤブレーキリザーバータンク
2. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

(ブレーキ液の補給は、6-11 ページ参照)
リヤブレーキ液量の点検は、カバー A を取り外して行います。(6-2 ページ参照)

JWA12151

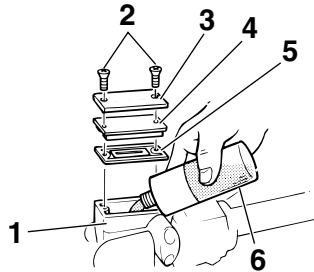
警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. リザーバータンク
2. スクリュー
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
6. ブレーキ液

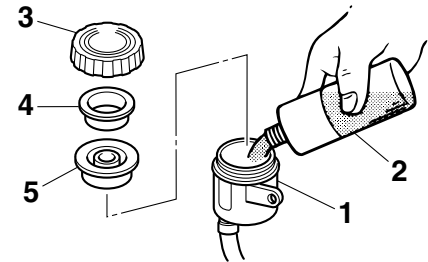
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

<リヤブレーキ>

1. カバー A を取り外します。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

JAU31265

2. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
3. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. リザーバータンク
2. ブレーキ液
3. キャップ
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム
5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。
6. カバーを取り付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマループ ブレーキフルード BF-4 (DOT-4)

警告

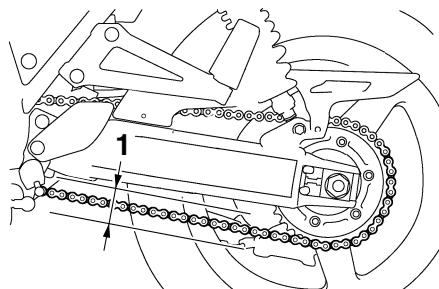
- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年ごとに交換してください。

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

ドライブチェーン

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてメインスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部に約 50N (5.0 kgf) の荷重をかけて上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

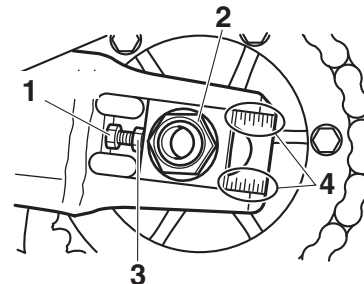
ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
20.0-30.0 mm

ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。

ドライブチェーンたわみ量の調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめて、チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. セルフロックングナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

要点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロックングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロックングナット：
150 Nm (15 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
 ロックナット：
 16 Nm (1.6 kgf-m)

- 左右の刻目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。

ドライブチェーンの給油

JAU23026

- リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマーループ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
- チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマーループ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注意

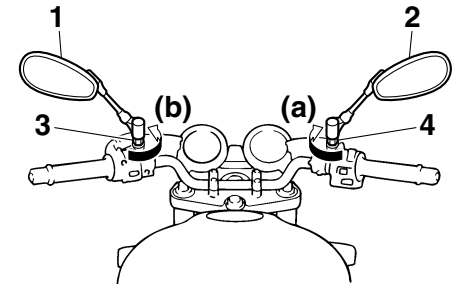
この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けナットを時計回り (a) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けナットを反時計回り (b) 方向に回してゆるめ、ミラーを同方向に回して取り外します。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 左バックミラー取り付けナット
4. 右バックミラー取り付けナット

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU28621

車体各部の給油脂状態の点検

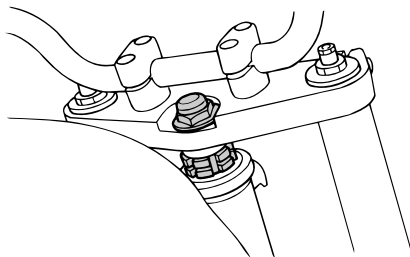
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

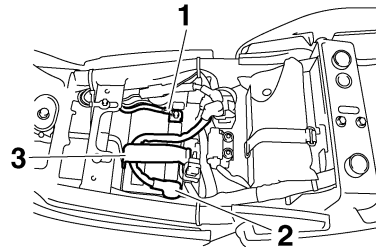
注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU28791

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。(3-11 ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリーバンド

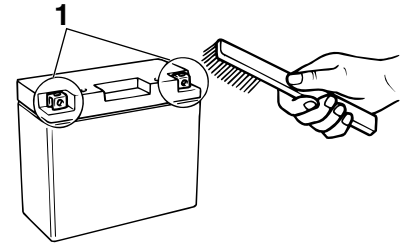
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



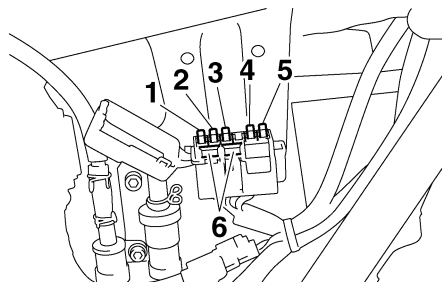
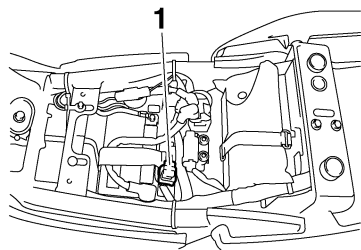
1. ターミナル

点検整備

JAU43274

ヒューズ交換

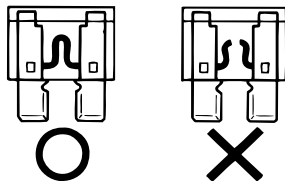
メインヒューズはシート下にあります。
(3-11 ページ参照)



1. ヘッドライトヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. イグニッションヒューズ
4. フューエルインジェクションヒューズ
5. バックアップヒューズ (時計/イモビライザーシステム)
6. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



- メインヒューズ：
50.0 A
- ヘッドライトヒューズ：
15.0 A
- シグナルシステムヒューズ：
15.0 A
- イグニッションヒューズ：
15.0 A
- フューエルインジェクションヒューズ：
15.0 A
- バックアップヒューズ：
7.5 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12862

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類 (ライト、計器など) を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

JAU29444

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-16 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換してください。

JCA12063

注意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（8-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注意

- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。

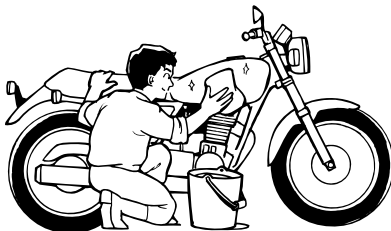
7

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

JAU27795



JWA11931

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回

復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかかわしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12214

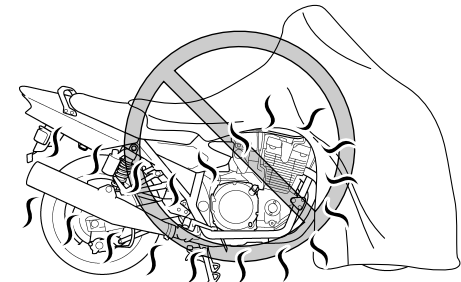
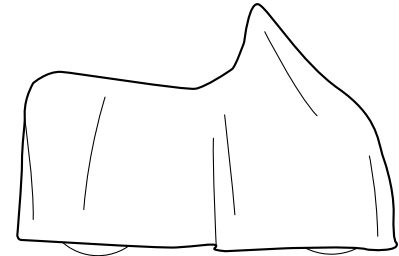
注意

- エアクリューナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

お車の手入れ

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

JAU28085

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

ヤマループプレミアムシンセティック

JAU28114

長期間安定した粘度特性を保ち、高い潤滑性能を発揮させるため、優れたせん断安定性能を実現。また、高温となるエンジン内でのオイルの酸化をハイレベルに抑制。高回転、高負荷下でも高い油膜保持性能を発揮するオイルです。

ヤマループスポーツ

高せん断安定性と同時に、高い低蒸発性を実現。オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなど過酷な条件下でも優れた性能を発揮するオイルです。

ヤマループスタンダードプラス

清浄性、高温酸化安定性を実現。温度に左右されない粘度特性を持ち、過酷な条件にも適しています。カジュアルなタウン走行から、タフな業務使用まで対応するオイルです。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、下の URL を入力してホームページを参照するか、「ヤマハ バイク オイル」というキーワードで検索してください。

<http://www.ysgear.co.jp/mc/>

ヤマハ バイク オイル

検索



寸法：	最小回転半径：	トレール：
全長：	2800 mm	100 mm
2175 mm	最高出力：	ステアリングシステム：
全幅：	74 kW@8000 r/min (101 PS@8000 r/min)	ハンドル切れ角 (左)：
765 mm	最大トルク：	37.0°
全高：	108 Nm@6000 r/min (11.0 kgf-m@6000 r/min)	ハンドル切れ角 (右)：
1115 mm	エンジン：	37.0°
シート高：	原動機種類：	燃料：
795 mm	4 ストローク空冷 DOHC	フューエルタンク容量：
軸間距離：	気筒数・配列：	21.0 L
1500 mm	直列 4 気筒	予備容量：
最低地上高：	総排気量：	4.5 L
125 mm	1250 cm ³	フロントブレーキ：
重量：	内径 × 行程：	ブレーキ形式：
車両重量：	79.0 × 63.8 mm	油圧式ダブルディスクブレーキ
245 kg	圧縮比：	リアブレーキ：
分布荷重 (前)：	9.7 : 1	ブレーキ形式：
119 kg	エアフィルターエレメント：	油圧式シングルディスクブレーキ
分布荷重 (後)：	湿式ろ紙	懸架方式：
126 kg	クラッチ形式：	種類 (前)：
車両総重量：	湿式多板	テレスコピック
355 kg	変速機形式：	種類 (後)：
分布荷重 (前)：	常時噛合式 5 速	スイングアーム
139 kg	始動方式：	緩衝方式：
分布荷重 (後)：	セル式	ショックアブソーバータイプ (前)：
216 kg	車体：	コイルスプリング / オイルダンパー
乗車定員：	フレーム形式：	ショックアブソーバータイプ (後)：
2 名	ダブルクレードル	コイルスプリング / ガスオイルダンパー
性能：	キャストター：	フロントタイヤ：
定地燃費 (国土交通省届出値)：	25.50°	種類：
21.0 km/L/60 km/h		チューブレス

製品仕様

サイズ：
120/70 ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄：
DUNLOP/D252F

リヤタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
180/55 ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄：
DUNLOP/D252

トランスミッション：

1次減速比：
1.750 (98/56)
1速：
2.857 (40/14)
2速：
2.000 (36/18)
3速：
1.571 (33/21)
4速：
1.291 (31/24)
5速：
1.115 (29/26)
2次減速比：
2.235 (38/17)

エレクトリカル：

点火方式：
TCI

ヘッドライト：

ヘッドライト球：
ハロゲンバルブ

バルブワット数 × 個数：

ヘッドライト：
12 V, 60.0 W/55.0 W × 1
テール / ブレーキランプ：
LED
方向指示灯 (前)：
12 V, 21.0 W × 2
方向指示灯 (後)：
12 V, 21.0 W × 2
番号灯：
12 V, 5.0 W × 1
メーター灯：
LED

パイロットランプワット数 × 個数：

ニュートラルランプ：
12 V, 1.7 W × 1
方向指示器表示灯：
12 V, 1.7 W × 2
オイルレベル警告灯：
12 V, 1.7 W × 1
ヘッドライト上向き表示灯：
12 V, 1.7 W × 1
エンジン警告灯：
12 V, 1.7 W × 1
イモビライザーシステム表示灯：
LED

エンジンオイル：

推奨オイル：
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、スポーツ、スタンダードプラス

エンジンオイル量：

オイルフィルターエレメント無交換時：
2.80 L
オイルフィルターエレメント交換時：
3.15 L

ドライブチェーン：

たわみ量：
20.0–30.0 mm

ケーブルとレバーの遊び：

スロットルグリップ遊び：
3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ：

パッド厚さ (内側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さ (外側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

リヤディスクブレーキ：

パッド厚さ (内側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さ (外側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

ホイールトラベル：
ホイールトラベル（前）：
130 mm
ホイールトラベル（後）：
110 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：
前輪（1名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（1名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
前輪（2名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（2名乗車）：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行：
前輪（1名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（1名乗車）：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
前輪（2名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（2名乗車）：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

バッテリー：
バッテリー型式：
YTZ14S
バッテリー容量：
12 V, 11.2 Ah

点火装置：
点火時期 (B. T. D. C.):
5.0° /1070 r/min

スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/DPR8EA-9
プラグギャップ：
0.8–0.9 mm

ヒューズ容量：
メイン：
50.0 A
ヘッドライト：
15.0 A
シグナル：
15.0 A
イグニッション：
15.0 A
フューエルインジェクション：
15.0 A
バックアップ：
7.5 A

ユーザー情報

JAU36641

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社)全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

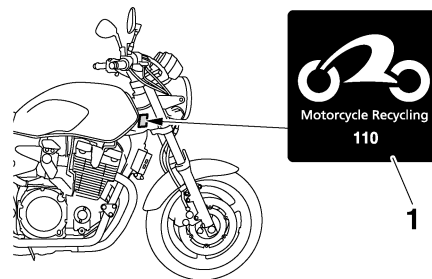
1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1

1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28392

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XJR1300 サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-011-5UX

車両情報

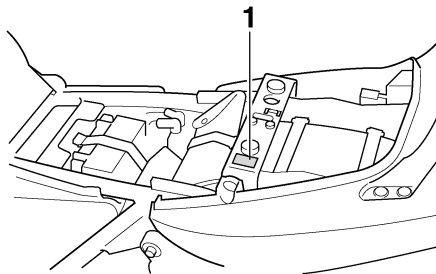
JAU28454

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は
XJR1300

モデルラベル
製品仕様を示しています。

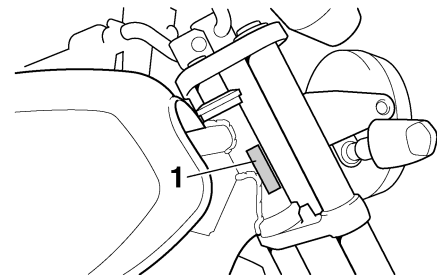


カラーリングを示しています。



JAU50501

車台番号



1. 車台番号

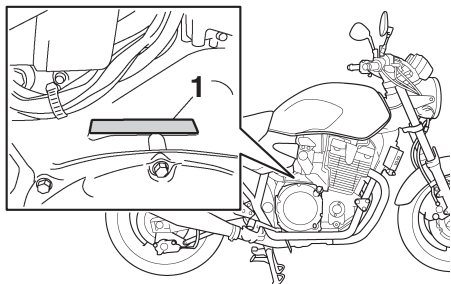
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

ユーザー情報

JAU50511

原動機番号



1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

- あ**
 あなた自身と同乗者のために 1-1
 アフターケア用品について 7-3
 アンダーブラケットの取り付け状態
 の点検 (ステアリングシステム) 6-14
- い**
 イグニッションサーキット
 カットオフシステム 3-19
 イモビライザーシステム 3-1
- う**
 運行において異常が認められた
 箇所の点検 6-17
- え**
 エアクリナーエレメントの交換 6-5
 エンジンオイル 6-3
 エンジン始動 5-1
 エンジンストップスイッチ 3-9
 エンジンのかかり具合、
 異音の点検 6-4
- か**
 カバーの取り外し、取り付け 6-2
 環境・住民の方との調和のために 1-6
- き**
 キーの取り扱い 3-1
 キャストホイールの取り扱い 7-2
 ギヤチェンジのしかた 5-2
- く**
 クラッチ 6-8
- け**
 警告灯と表示灯 3-3
 原動機番号 9-3
- こ**
 小物入れ 3-13
- さ**
 サービスツール 6-2
 サービスマニュアル (別売) の
 紹介 9-2
 サイドスタンド 3-18
- し**
 シート 3-11
 車体各部の給油脂状態の点検 6-14
 車台番号 9-2
 車両情報 9-2
 書類入れ 3-12
- す**
 スタータースイッチ 3-9
 スピードメーター 3-4
- せ**
 洗車 7-1
- た**
 タイヤ 6-6
 タコメーター 3-5
- ち**
 駐車 5-2
- て**
 低速、加速の状態の点検 6-4
 点検整備の実施 6-1
- と**
 灯火装置および方向指示灯の点検 6-17
 盗難警報器 (別売アクセサリ) 3-8
 ドライブチェーン 6-12
 ドライブチェーンの給油 6-13
- な**
 ならし運転 5-2
- に**
 荷掛けフック 3-17
 日常点検箇所／点検内容 4-1
 日常点検の実施 4-1
 二輪車を廃棄する場合は? 9-1
- ね**
 燃料 3-11
- は**
 バックミラー 6-13
 パッシングライトスイッチ 3-9
 バッテリー 6-14
 ハンドルスイッチ 3-8
- ひ**
 ヒューズの交換 6-16
- ふ**
 フェUERタンクキャップ 3-10
 ブレーキ液の補給 6-11
 ブレーキ液量の点検 6-10
 ブレーキパッドの点検 6-10
 ブレーキランプスイッチ 6-9
 ブレーキレバー／クラッチレバーの
 握り調整 3-18
 ブレーキレバーの遊び／
 ブレーキペダルの遊び、および
 ブレーキのきき具合の点検 6-9
 フロントフォークの調整 3-13
- へ**
 ヘッドライト上下切り替え
 スイッチ 3-9
 ヘルメットホルダー 3-12

索引

ほ

- ホーンスイッチ 3-9
- 方向指示器スイッチ 3-9
- 保管のしかた 7-2
- 歩行者と他の車のために 1-5

ま

- マルチファンクション
ディスプレイ 3-5

め

- メインスイッチ 3-2

も

- モデルラベル 9-2

り

- リヤクッションの調整 3-15



つながるバイク

スマートフォンアプリ

バイクライフをサポートするスマートフォンアプリです。

- お出かけスポット・イベント情報の検索やナビなど
- 燃費やメンテナンスなど愛車の情報管理

詳しくはWEBサイトで

つながるバイク

検索

/click



あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。



QQS-CLT-113-5UX

再生紙を使用しています

PRINTED IN JAPAN
2014.09-0.3×2 CR
(J)